

令和6年度 延岡しろやま支援学校 学校自己評価（回答数82）

※ 自己評価の基準 4：十分達成された 3：概ね達成された 2：やや不足な点がある
1：ほとんど達成されていない 0：わからない（無回答）

ビジョン1 「チャイルド・ファースト&チャレンジド・ファースト」を柱とした学校運営

評価項目		4	3	2	1	0	評価
①	子どもの権利条約、障害者権利条約の理解促進と人権感覚の涵養を図り、併せてコンプライアンス遵守及び言語環境の整備を行う。	10	65	6	1	0	3.0 (3.1)
②	校訓及び新しい児童生徒像に基づく教育活動の充実を図る。 「表現」自ら考え、自分らしく表現する子ども（思考力・判断力・表現力等） 「実践」学んだことを生かし、実践する子ども（知識・技能） 「挑戦」夢をもち、自ら挑戦する子ども（学びに向かう人間性等）	5	72	4	1	0	2.9 (3.0)

ビジョン2 「社会に開かれた教育課程」の具現化を目指した3つの視点（しろやまOPQ）によるカリキュラム・マネジメントの推進（アレンジ力）

O…Original (オリジナル) 恵まれた教育資源を生かした、本校ならではの教育実践

P…Pride (プライド) 県北のセンター校としての矜持（きょうじ）を示す取組

Q…Quality (クオリティー) 卒業後の豊かな生活を支える生涯学習の推進

評価項目		4	3	2	1	0	評価
①	卒業後の視点を大切にしたカリキュラム・マネジメント ・ 将来の自立や社会参加の基礎となる意欲と力を育てるため、地域の企業、福祉施設等や地域の人々と関わり、つながる（つなげる）教育活動の創造を図る。 ・ 幼児児童生徒の社会参加と自立をめざし、全職員の共通理解を図り、幼稚部から高等部まで一貫したキャリア教育を推進する。	3	57	17	1	4	2.8 (2.9)
②	複数障がいに対応した特別支援学校教職員としての専門性の向上 ・ 「聴覚障がい」「知的障がい」「肢体不自由」に関する「基本となる障がいの理解」の徹底を行う。 ・ OJTの推進、外部専門家の活用等を通して、専門的指導力の向上を推進する。 ・ オンライン研修や自主研修等のOFFJTを推進し、研修の機会の充実を図る。 ・ 学びの保障を行うためにICT機器の利活用を積極的に行う。	8	57	15	0	2	2.9 (2.9)
③	スポーツ・文化・芸術活動等の推進 ・ 新しい生活様式に基づいた教育活動の工夫を行い、参加・発表の機会の充実を図る。 ・ 外部機関との連携を密にして各種大会、作品展や校外販売等の実施を推進する。 ・ 可能な限り、将来の自立的な生活をめざすために技能検定や検定試験等の取組を推進する。	11	64	6	0	1	3.0 (3.1)

ビジョン3 子供の学びを支え、可能性を最大限に伸ばす教育環境の整備

評価項目		4	3	2	1	0	評価
①	ICT教育の推進と活用 ・ オンライン授業や遠隔授業等を取り入れながら、児童生徒の可能性を最大限に伸ばす教育活動を行う。	5	46	22	6	3	2.6 (2.8)
②	感染症や災害等の発生への対応 ・ 学習指導、生徒指導、災害時対応等の視点から、環境の整備及び校内美化を行う。 ・ 防災委員会等を中心とした感染症対策や災害時対応、危機管理対応を行う。	12	61	8	0	1	3.0 (3.0)

ビジョン4 「学校の信頼回復」と「働き方改革」

評価項目		4	3	2	1	0	評価
①	「不祥事は絶対起こさない。」という強い覚悟と「高い倫理意識」をもって、学校の信頼回復を行う。事案発生時には、管理職が責任をとり、全職員に情報提供を行う。	17	52	8	3	2	3.0 (3.3)
②	ホームページ、X(旧ツイッター)、Instagram、新聞、テレビ等を活用して、本校の教育活動の発信を積極的に行う。	9	55	13	2	3	2.9 (2.9)
③	業務の「見える化」やICT活用、有効的な時間活用により事務作業等の効率化を図り、質の高い教育活動ができるような「働き方改革」を推進する	3	42	25	7	5	2.5 (2.7)

※()内は昨年度の評価